

就農をめざす若い人の力になり

有機農業で地域を活性化したい



坂本重夫さん・圭子さん夫妻

有機農業を始めたきっかけは玄米食

自給的な暮らしをしながら、安全安心な食べ物を消費者の人たちに食べてもらおうという有機農業を始めてから30余年になる。醗酵を十分にさせた完熟堆肥と有機質のほかし肥料を使うという微生物農法のやり方は最初から変わっていないが、現在は、ほかし肥料はほとんど使わず堆肥中心の栽培である。より生命力のある野菜作りをめざすには、土の力を育てることが大事であり、肥料に頼らない作り方が求められる、と考えるからである。

米、野菜、卵などの生産物は、すべて消費者に直接届けるというスタイルもずっと変わっていないが、マクロビオティックの玄米食の人が増えてきているのはうれしい。私が有機農業に目覚めたのも、玄米食に若い頃出会ったのがきっかけであり、玄米と季節の野菜を食べる食生活で健康になってもらうことが一番の喜びである。

「オーガニック生活学校」で自給的な暮らしをサポート

4人いた子供たちも今はすべて家から巣立ち、今は私たち夫婦と若い研修生との暮らしである。若い人たちが環境問題も含めて農業に関心を持ち、有機農業の研修にたくさんの若者がわが家を訪れるようになって久しい。実際に就農する人は、その何分の一ではあるが、若い人たちの力になることがこれからの私の仕事の大事な一つと思っている。

現在、私の近くで新規就農した若者が私の長男も含め4組になり、「てとて」というグループを作り生産、販売、農産加工などに協力して取り組むようになってきている。これからの有機農業は、過疎化、高齢化していく地域の中で、いかに若い力を取りこんでいくかということが大事になっている。



高坂町有機農業生産グループ「てとと」の若いメンバーと坂本さん



ウーファアのイギリス女性(中央)と二人の研修生(右から2番目と左端)と坂本さん夫妻

広島県の有機農業研究会の事務局も担当しているが、若い就農をめざす人たちの力に少しでもなれるように、研究会の中でも取り組んでいるところである。

また、「オーガニック生活学校」というグループを仲間と作り、自給的な暮らしに役立つさまざまな技術の習得(ソーラーパネル作り、かまど作り、水の浄化法、炭焼きなど)を目指す活動も行っている。

自立した自給的な暮らしを、有機農業を通じて作り、地域を活性化するという最初からの目標に向かって、これからも力をつくしていきたい。

●坂本重夫 プロフィール

1978年、結婚し東京から現在地に就農。米と野菜作りで消費者と直接提携のスタイルはずっと変わっていない。現在は稲1.8ha、野菜0.7ha、平飼養鶏500羽。1981年から広島県有機農業研究会の事務局担当。2004年日有研の有機農業アドバイザーに認定。2008年から高坂町有機農業生産グループ「てとと」代表。